

第4章 防災対策の先進事例

～防災対策が進んでいる高層住宅の例～

防災対策がうまくいっているマンションの事例紹介



＜居住者が誰でも災害対応にあたるようにしました＞

事例A 芝浦アイランドケープタワー

平成18年築 48階建て 総戸数約1,100戸

東日本大震災が平日昼間の発災であったため、マンションにいる人が少なく、緊急対応等に危機感を持ったことを契機に、有志を中心とした防災ワーキングチームが結成され、災害発生時には「事前に決めたリーダーがいない」という前提で防災対策を考えることにしました。

具体的には、各階にある防災倉庫に災害対応の手順を示したマニュアルやトランシーバーのほか、備蓄食料等を常備し、大震災発生時には、高齢者や主婦を含め、その時マンションにいる人だけで、マニュアルを見て安否確認やトランシーバーを使った情報の入手等ができるようにしました。

また、在宅避難を基本とし、各階で対応にあたるよう、防災訓練で周知を図っています。各階における訓練のほか、防災にちなんだ子ども向けの工作教室や料理教室、震災時のペットストレス軽減講習、防災用品の販売に加え、野菜マルシェ等、様々なイベントを開催したことで、大勢の居住者が参加するようになりました。



▲防災訓練の様子



＜居住者を集めるイベントを契機に防災対策が進みました＞

事例B 三田シティハウス

平成10年築 14階建て 総戸数約180戸

以前は、「大地震が来ても自分でなんとかできるだろう」と考える人が多かったせいか、なかなか防災対策が進みませんでした。子どもも楽しめるようなイベント型の防災訓練を実施した際に、メンバーのなり手を募るなどして、防災委員会を立ち上げました。

防災組織のメンバーには、防災訓練に参加した母親なども加わり、「もし大地震が来たら、子どもや自分の安全が確保できるか心配」と、防災意識が高まり、防災対策が進むようになりました。

また、安否確認カードを使った防災訓練では、各戸の扉に張り出されたカードを委員が確認する際に、その後集会室で実施される防災イベントにおける「お土産引換券」を挟むことで、イベント参加者を増やすことができました。

座談会や防災紙芝居等を行う防災カフェを定期的で開催することで、顔が見えるご近所付き合いをめざしています。





＜キーパーソンの活躍によりマンションの防災対策が進みました＞

事例C

居住者に防災士※の資格を持つ人がいて、その人が総会で防災に関する提案をしたことをきっかけに、防災対策が進みました。

事例D

同じマンションに長く勤め、マンションのことをよく把握し、居住者とも信頼関係のある管理員が「もし自分がない時に大地震が来たら居住者だけで対応できるか心配」との不安から、管理組合に問題提起をしたことを契機に、管理組合が防災対策を本格化させました。

※防災士：社会の様々な場で減災と社会の防災力向上のための活動が期待され、さらに、そのために十分な意識・知識・技能を有する者として認められた人。港区では資格取得を支援しています。



＜居住者に集まってもらい口頭で防災対策の啓発をしました＞

事例E

総会後の懇談会、野菜の直売会などを実施して居住者に集まってもらい、居住者どうしが顔見知りになってもらうとともに、口頭で防災対策の啓発をしました。



＜災害対応への協力者を募りました＞

事例F

大地震が発生した際に、マンションの災害対応に協力してくれるかどうかについて、全戸を対象にアンケートを実施しました。その結果、多くの居住者から支援可能との回答が得られました。



＜居住者の特技をいかして、災害対応を進めるようにしました＞

事例G

マンション居住者に対して、看護、設備点検のほか、炊飯、子守り、荷物運びなど、自分の特技に合わせて災害発生時に何ができるかに着目し、事前に登録する取組みを行いました。その結果、「自分も災害対応に役に立てる」と居住者の災害対応意識が高まりました。